

今後の主催事業のご案内

女性活躍・ダイバーシティ採用フェア

第67回天然有機化合物討論会

●日時：2025年9月9日(火)～10日(水) ●会場：東北大学川内北キャンパス

北東北女性研究者 研究・交流フェア2025／PI力向上研修

●日時：2025年9月26日(金) 10:00～16:00 ●会場：岩手大学復興祈念銀河ホール／ものづくり協創工房

■第1部／「産学官トップでいま改めて考える女性リーダー増加の加速

～岩手大学・女性リーダー育成型補助事業中間年を経て～」

○基調講演「ダイバーシティはなぜ必要か、どのように推進するのか」

○パネルディスカッション「産官学における女性リーダー増加の課題とその克服を考える」

○講評

■第2部／ランチタイム交流会、研究・企業紹介ポスターセッション

申込方法など詳細はホームページをご覧ください。

<https://diversity.iwate-u.ac.jp/uncategorized/2025-northern-tohoku-women-researchers-research/>



北東北国立3大学連携男女共同参画シンポジウム／PI力向上研修

「地方大学における女性リーダー育成環境の課題

～岩手大学女性リーダー育成環境整備にかかる教職員アンケート(2023.2025)の結果より～」

●日時：2025年10月17日(金) 14:00～15:30 ●会場：岩手大学本部棟2階第一会議室およびオンライン

女性活躍・ダイバーシティ推進イベント／PI力向上研修

●日時：2025年11月24日(月・祝) 13:00～15:00 ●会場：いわて県民情報交流センター(アイーナ)4階県民プラザ

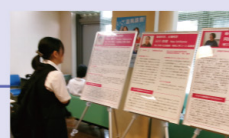
●内容：地方を元気にする多様な次世代人材育成をテーマとしたトークショー(ゲスト：フォトジャーナリスト 安田 菜津紀 氏)

※同時開催：ダイバーシティ推進室及びすずらん基金、寄附企業の取組紹介パネル展示

関連取組

多様な分野で輝く女性の交流会 ～女子中高生向け 理系の魅力発信イベント～ 「理工卒の女性たちはどんな仕事しているの？」

7月12日、いわて県民情報交流センター(アイーナ)で、理工系を志望する女性を増やすことを目的に、岩手大学理工学部を卒業し、県内の理工系企業で働く女性たちによるトークセッション・座談会、及び理工系県内企業等のブース出展が行われました。参加した女子中高生とその保護者は、進路の選択肢を広げるヒントを得たようです。



女性研究者紹介パネル展示

8月5日、岩手大学オープンキャンパスで、本学の女性研究者を紹介するパネルを展示しました。女性研究者のメッセージは、岩手大学を訪れた女子高校生への今後の進路選択のヒントになったようです。

岩手大学 女性のキャリア形成支援リカレントプログラム「アドバンストセミナー」

地域で働く女性向けリカレントプログラムの上級編「アドバンストセミナー」。様々なテーマで知識の幅が広がり、さらに交流を通して受講者をエンパワーする内容です。

第1回(10/3):男性と共に学ぶダイバーシティセミナー

第2回(10/24):女性リーダーが知っておきたい知識習得セミナー(講師:本学女性教員)

第3回(11/28):女性リーダー向け社会人基礎力セミナー

女性のキャリア形成支援リカレントプログラム2025

<https://diversity.iwate-u.ac.jp/support/recurrent/2025-2/>



女性教員比率 前年度比の伸び率1位を達成

国立大学協会が2024年度に実施した「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第21回追跡調査」で、岩手大学の女性教員増加率の前年度比が、86国立大学中1位になりました。女性限定・優先公募の実施、新任女性教員への定着支援経費の支給、ダイバーシティレポート制度の実施、部局・分野毎の女性教員比率の年次計画・目標の設定、一斉休業日の設定・拡大、四半期毎の「休暇使用計画表」作成、年次休暇の取得が少ない者への声がけ等が特に効果をあげている取組です。

報告書が掲載されているサイトはこちら

<https://www.janu.jp/janu/gender/>



ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型) 中間評価「総合評価A」

2022年度に採択された本プログラムは、補助期間の中間年にあたる2024年度に中間評価を受けました。結果「総合評価A」で、「所期の計画と同等の取組が行われている」との評価を受けました。

岩手大学では、女性研究者比率の対前年度伸びが、第21回国大協追跡調査で全国立大学1位を記録するなど、実績をあげてきたものの、女性教授比率や女性執行部比率は依然低く、上位職への女性登用に課題がありました。その課題克服のために、本プログラムでは、「女性研究者グローバルキャリア支援海外派遣制度」や研究時間捻出のための「女性活躍変形バリエーション制度」を新たに構築することで、女性研究者のさらなる業績蓄積を支援して昇任を加速させ、また理事・副学長の特別補佐への任命やリーダーシップに関する啓発動画の製作など、女性研究者にリーダー職への意欲の喚起をはかる取組を進めています。

今回の中間評価では、農学部で女性教授が2名誕生したこと、女性副学長が1名増加したこと、学外のネットワークと連携し女性研究者の活躍推進に寄与していることが評価されました。また、2023年度にアンケート調査を実施して、その結果に基づき着実に本学の課題に対処している点、また前述の海外派遣制度や、バリエーション制度などの取組も、女性研究者の研究力強化に期待ができるとして高く評価されました。さらに、この取組の支援制度を補助期間終了後も継続し発展させるために、本学の基金(女性活躍・ダイバーシティ推進基金「すずらん基金」)を活用する計画を進めている点についても、評価を得ました。

しかし一方で、理工学部では女性の教授登用がなかったことは、全体評価が今一步伸びなかった要因の一つだと認識しています。女性研究者をリクルートする「女性活躍・ダイバーシティ採用フェア」の活動を、特に理工系の学会を中心に進めることや、企業的女性研究職に本学でクロスアポイントメントでの勤務をしてもらうことなど、女性教授候補となり得る理工系女性研究者の裾野拡大に努めるとともに、学部長等とダイバーシティ推進室長との、女性教授昇任に関する意見交換を励行し、さらなる取組の展開や働きかけが必要です。

女性リーダー育成のための動画教材 「いわて女性リーダーGet Ready With Me!」完成

民間企業と共同で企画・制作し、多忙な女性研究者や女性リーダー等が隙間時間に視聴できる「女性リーダー育成」のための20分程の動画教材が今年3月に完成しました。

女性リーダー育成の第一関門には、「自信がない」「リーダーを引き受けるなんてとんでもない」と思っている女性たちのマインドを「リーダーを引き受けてもいい」と思うようにするにはどうすればよいのか、という問題があります。悩みながらも一足先にリーダーを引き受けた4人(女性リーダー育成の専門家、民間企業のリーダー、研究者)が、引き受けた経緯や引き受けてみての経験、引き受ける人を増やすために今必要な変化や支援について語っています。

いわて女性リーダーGRWM動画

https://diversity.iwate-u.ac.jp/public_relations/leaflet/



テーマⅠ 前編・後編

「女性がリーダーを引き受ける意味は」

テーマⅡ 前編・後編

「女性リーダーに必要なスキルや能力とは何か」

テーマⅢ 前編・後編

「職場や男性リーダーにどのような変化を求めるべきか」



テーマⅠ・Ⅱ出演者
東京家政学院大学 野村浩子特任教授(右)
信幸プロテック(株) 村松直子専務取締役(中央)
岩手大学副学長・ダイバーシティ推進室長 海妻径子(左)



テーマⅢ出演者
東京家政学院大学 野村浩子特任教授(右)
NTT東日本(株) 加藤咲子執行役員(中央)
岩手大学副学長・ダイバーシティ推進室長 海妻径子(左)

動画の完成を受け、3月7日に「リーダーのための女性活躍推進セミナー」を開催しました。当日は、県内の大学や企業等のリーダー等23名の参加者を得て、NTT東日本(株)ダイバーシティ推進室副室長の黒坂氏による女性活躍推進セミナーの後、動画の試写、動画出演者によるパネルディスカッション、参加者によるワークショップを行い、地域における女性活躍の機運醸成を図りました。



岩手大学女性研究者支援人材バンク開設

本学の女性研究者(依頼者)が業務支援をする人材(支援者)をスムーズに見つけやすくするためのウェブシステム「岩手大学女性研究者支援人材バンク」を開設しました。

依頼者は依頼したい業務内容を登録し、支援者は自分のスキルや希望などを登録することで、業務と人材をマッチングします。登録可能な支援者は本学の卒業生・修了生・学部生・大学院生です。本学の女性研究者が本システムを活用し、業績をさらに蓄積しステップアップするよう期待しています。

人材バンクサイト

<https://jinzai.diversity.iwate-u.ac.jp/>



女性外国人研究者招聘支援制度 ～海外から招聘した女性研究者との交流～

本学女性研究者の研究業績の蓄積を期待し、国際的な研究ネットワーク作りに寄与する「女性外国人研究者招聘支援制度」を2024年度に始めました。初年度は、韓国と台湾から女性研究者6名を招聘し、特別講義、学生との交流、研究交流ワークショップ等を行いました。参加した女性外国人研究者の感想を紹介します。(※一部抜粋して掲載しています)

(招聘事業に参加して)ダイバーシティのことをより意識するようになりました。ダイバーシティを重視した活動が続けば、個人の能力が向上し、社会の発展に結びつくと思います。
＜韓国・法学・准教授＞

(本学女性教員との研究交流について)今回の経験は他に類を見ないほど印象深いものでした。
＜韓国・韓国史・助教授＞

日本の高等教育(大学)や文化に浸り、多様な視点を得られました。今回の経験で、将来の目標や志を見つめ直すきっかけとなりました。
＜韓国・政治学・講師＞

国際的な研究交流に積極的に取り組むダイバーシティ推進室の活動が、隣国の大学にも刺激となり、今後さらに影響を与えることを願っています。
＜韓国・近代国学思想・非常勤講師＞

特別講義を準備しながら、新しい学びと悟りを得ることができました。観客とのコミュニケーションも楽しかったです。
＜韓国・映画理論・研究員＞

今回の発表が、多様な学問的背景を持つ若い女性研究者のキャリア形成を促し、キャリアの初期段階でも意義ある貢献ができることを示すきっかけになれば幸いです。
＜台湾・生化学・教授＞



女性研究者グローバルキャリア支援海外派遣制度 ～海外派遣制度利用者の声～

Etty Nurlia Kusumawati / (エッティ スルリア クスマワティ) 理工学部 助教

渡航先：中国(2023年10月29日～11月3日)
インド(2024年12月7日～12月21日)



本制度の支援を受けたことで、2023年と2024年に国際的な研究活動を広げる貴重な機会を得ることができました。この制度は、私の研究および専門的な成長において極めて重要な役割を果たしました。

私の研究は、イオン液体とメソポーラスシリカを用いた固体触媒の開発に焦点を当てており、グリーンケミカルプロセスやCO₂固定化に貢献するものです。特に、より持続可能な化学プロセスを実現するための革新は、溶媒を使用しない反応や穏やかな反応条件を可能にし、環境負荷の低減に寄与します。さらに、私の研究はCO₂を有用な化学物質へ変換することを目指しており、炭素循環の促進や地球温暖化対策にも貢献しています。

2023年には、中国で開催された9th Asia-Pacific Congress on Catalysis(APCAT-9)で、イオン液体とメソポーラスシリカを用いた固体触媒の開発に関する研究成果を口頭発表し、世界中の専門家と意見交換を行い、貴重なフィードバックを得るとともに、私の研究の認知度を高めることができました。

2024年には、インドのInstitute of Chemical Technology(ICT)でCO₂固定化に関する実験研究を行うことができました。この国際共同研究は、私の技術的スキルを大きく向上させ、今後の長期的な国際連携の基盤を築く重要な一歩となりました。

この制度は、渡航費や滞在費だけでなく、研究に必要な材料や機器の購入費も支援しており、海外での研究活動に対する資金が限られている若手女性研究者にとって、非常に意義深い支援です。今後もこの制度が、より多くの女性研究者の挑戦を後押しし、研究力の向上、国際的なネットワークの拡大、そして世界で活躍する女性研究者の育成につながることを心より願っています。